I-26

駅前空間における人の留まる場所に関する研究
～場所の特性と行動特性の関係について～

Study on the property of the place people stays in the station square space
About the relations of extensity and the action

○佐藤美穂 [1]，山中新太郎 [2]
*Miho Sato[1]，Shintaro Yamanaka[2]

１．序論

1-1. 研究の背景と目的

今日、生活する中で様々な所に人が留まっているのを目にする。人が留まる空間には何かしらの共通の要因があるのではないか。本研究では、空間と人の行動の関係を検証することを目的とする。

1-2. 既往研究と本研究の位置づけ

滞留行動に関しての研究は多くある。「公開空地における滞留行動」という中村の研究では、滞留の生じる場の重要な空間構成要素を抽出している。また、「街路の境界領域の特性と歩行者の滞留に関する研究」という嶋田らの研究では、都市の街路に着目し、滞留行動と歩行空間の構造とを分析しその関係性を見出していた。

これらの研究は空間の要素に着目していたが、滞留者の行動には着目していなかった。

本研究では、空間の要素だけでなく、行動との関係に着目し、空間が人の行動に与える影響について研究を行う。

1-3. 用語の定義

1-3-1.「留まる」の定義

現地調査を行ったところ、人が立ち止まり、行動を起こすまでの時間は約１０秒であった。本研究では行動に着目していくため、１０秒以上立ち止まっている状態を「留まる」と定義し研究を行っていく。

1-3-2.「駅前空間」の定義

本研究では、人の溜りのある場所を選定し調査を行う必要がある。待ち合わせスペースがある場所ではそこを「駅前空間」とし、待ち合わせスペースが無い駅では改札前の空間を「駅前空間」と定義し研究を行った。

1-4. 研究対象の選定と方法

本研究では、駅利用者が多く、様々な滞留行動の観察が期待できる山の手線の駅の駅前空間を対象とし、研究を行う。

山手線の駅の規模と滞留の関係性を調べるため、線の本数、新幹線の有無、駅前広場の有無、滞留の有無、また周辺地域の用途の調査を行った。

表１．各駅の規模と駅前広場、滞留の関係性

駅名	線数	新幹線	駅前広場	滞留	周辺地域の用途
大崎	3	×	×	×	住宅
五反田	3	×	×	×	住宅
目黒	4	×	×	×	ビジネス
恵比寿	3	×	×	○	ビジネス・観光
渋谷	8	×	○	○	ビジネス・観光
原宿	3	×	×	○	観光
代々木	3	×	×	○	ビジネス
新宿	9	×	○	○	ビジネス・観光
新大久保	1	×	×	×	観光
高田馬場	3	×	×	△	ビジネス・住宅
目白	1	×	○	×	住宅
池袋	9	×	○	○	ビジネス
大塚	2	×	×	○	住宅
巣鴨	2	×	×	×	住宅
駒込	2	×	×	×	住宅
田端	2	×	×	×	住宅
西日暮里	3	×	×	×	住宅
日暮里	6	×	×	○	ビジネス
鶯谷	2	×	×	×	住宅
上野	8	○	○	○	ビジネス・観光
御徒町	5	×	×	×	観光
秋葉原	5	×	○	○	ビジネス・観光
神田	4	×	×	○	ビジネス
東京	16	○	○	○	ビジネス
有楽町	3	×	○	×	ビジネス
新橋	9	×	○	○	ビジネス
浜松町	4	×	×	△	ビジネス・住宅
田町	4	×	○	△	ビジネス・住宅
品川	7	○	○	○	ビジネス

表１から３つのパターンに分けることができた。また、その中から変化の著しい場所に注目し研究を行っていく。

Ⅰ、駅前広場があり、かつ滞留が盛んである
→渋谷ハチ公前広場、新橋 SL 広場、新宿東口前

Ⅱ、駅前空間はないが、滞留が盛んである
→原宿駅改札前、大塚駅改札前

Ⅲ、駅前広場はあるが、滞留が盛んではない
→目白駅前広場、有楽町駅中央改札前広場

１：日大理工・学部・建築　２：日大理工・教員・建築

２．滞留場所の調査

各対象エリアで１時間の調査を行った。動画を１時間撮り続け、検証し表にまとめ、分析を行った。

2-1. 滞留場所における要素と人数の関係

現地調査から、ベンチ、段差、植栽、壁、柱、モニュメントの６つの滞留要素を抽出した。またそれらの要素が無い場所での留まりも見られたため、「何もない」も要素として扱うこととする。

どの要素が滞留に大きく影響を与えるかを検証するため、要素ごとに滞在している人数の分析を行った。それを図１に示す。

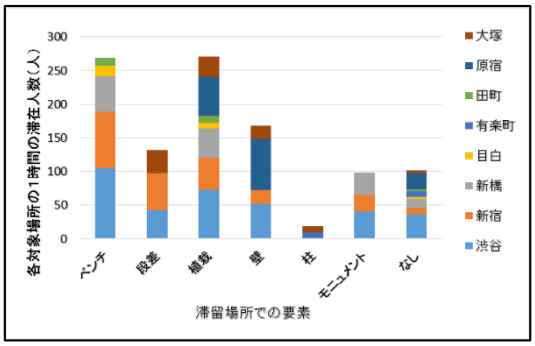

図１　滞留場所の要素と滞在人数の関係

図１から、渋谷において様々な要素の近くで滞留が生じている事が分かる。そこで１例として渋谷を対象とし、０～１０分間で人が留まっている場所と行動を地図にプロットしたものを図２に示す。

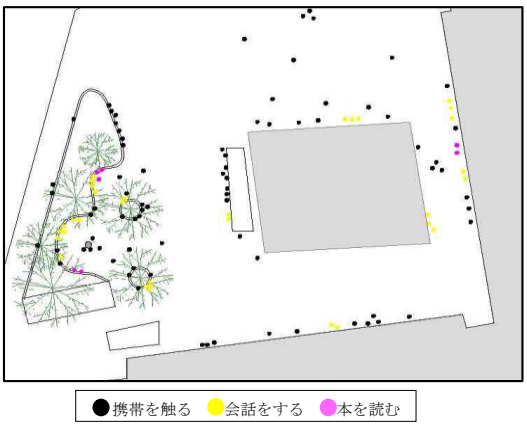

図２　渋谷ハチ公広場における滞留のプロット図

図 1 からベンチや段差など座ることのできる要素や、モニュメントや植栽などの要素の有無が滞留行動に関係している事が分かった。また、図２から要素の形状や、要素同士の距離が滞留行動に影響を与えているのではないかと考える。

2-2. 滞留場所における要素と滞在時間行動の関係

滞留行動の多かった渋谷を対象に調査する。要素と滞在時間、行動の関係を図３、図４に示す。

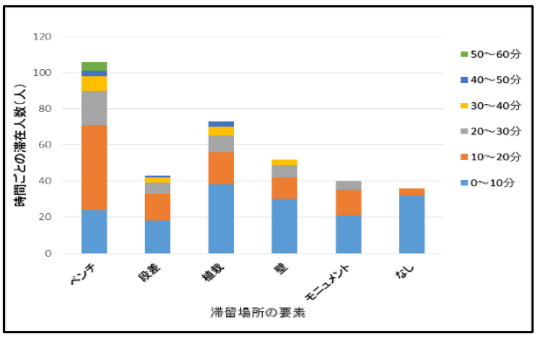

図３　滞留場所の要素と滞在時間の関係

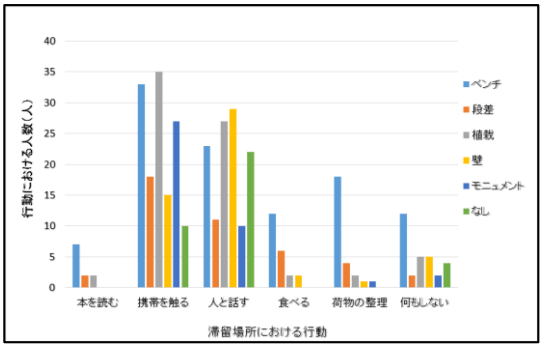

図４　滞留場所における要素と行動の関係

図３からベンチや段差など座れる要素がある場合、滞在が長いことが分かった。また図４から本を読んだり、食事をする場合は要素が大きく影響しており、これは要素別の滞在時間と関係していることが考察できる。

３．考察及び展望

空間を構成している要素は人の滞留に大きく関係している事が分かり、行動にも影響を与えると考えられる。

本研究では観察調査を中心に行ったが、現地での調査が不十分であるため、現地の調査を増やす事でより明確な結果を出す事が出来るだろう。

４．参考文献

１）公開空地における滞留行動と空間構成要素/嶋田圭佑　田中一誠　吉川眞　大阪工業大学工学部

２）街路空間の境界領域の特性と歩行者の滞留に関する研究/中村翔一　早稲田大学理工学部社会環境工学科景観・デザイン研究室

行動をデザインする　早稲田大学渡辺仁史研究室

JR 東日本駅検索

https://www.jreast.co.jp/estation/result.aspx?mode=2&rosen=66=1=%8ER%8E%E8%90%FC